

令和 6 年度 大阪府芸術文化振興補助金、輝け！子どもパフォーマー事業補助金の審査について

令和 5 年 5 月に、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同等の 5 類感染症へと引き下げられました。社会は日常に戻りつつありますが、文化芸術分野では依然として厳しい状況が続いています。活動の場においては、離れてしまった観客などが戻りきっていないまま、国や自治体、民間からのコロナ支援が次々と終了したことも相まって、活動継続に対する不安は未だに払拭されておりません。

このような背景のもと、大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会（以下、「大阪アーツカウンシル」という）では、令和 4 年度から令和 5 年度にかけて補助金採択事業の視察や採択事業者へのヒアリングを積極的に行うことで、文化芸術関係者が直面している課題の把握に努めてまいりました。また、同時に、課題を乗り越え、活動を継続しようとする現場の熱意も目の当たりにしてきました。

そのような経緯から、大阪アーツカウンシル委員は補助金の採択審査がいかに責任あるものであるかを強く意識した上で審査に臨んでおり、令和 6 年度分事業の審査においては、まず各補助金の目的へ立ち返し、それぞれが目標とする効果について改めて考え直しました。

各補助金の目的について、「大阪府芸術文化振興補助金」は、府民に優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し芸術文化の振興を図るため、「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」は、文化を通じた次世代育成を図るため、と明記されています。つまり、これらは単に質の高い文化芸術活動を支援することを目的として設けられた補助金ではなく、府民生活へのポジティブな影響を通して社会全体に寄与することを目的として設けられた補助金であり、事業者にはそのような広い視野から活動を計画することが求められています。

そのことを踏まえ、既存の審査項目に加えて、「大阪府芸術文化振興補助金」では、申請者は、府民に芸術文化に触れる機会を効果的に提供するためにどのように工夫しようとしているか、将来の文化芸術の担い手をどのように育成しようとしているか、学校や地域などの他機関とどのように連携を図ろうとしているか、自身の活動を自律的かつ持続的に展開するための環境づくりをどのように行っているか、という視点から審査を行うとともに、「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」では、子どもが自主的かつ主体的に関わる機会を提供する工夫が具体的に検討されているか、事業を確実に実施できる制作体制や実施体制が整っているか、子どもたちの感性・創造性・表現力の育成に資する事業内容であるか、新しく文化芸術に関心を持つ人を増やすための広報や集客面での取り組みを行っているか、という視点から審査を行いました。

今回の申請で不採択となった事業もありますが、それは申請者の活動そのものに問題があったからではありません。不採択となった主な理由としては、申請書や面接において、各補助金の目的や求められている事業効果に対して申請している活動の内容を十分に紐づけて説明ができていなかった可能性が考えられます。大阪府の補助金事業に限らず、あらゆる補助金事業・助成金事業の申請において言えることですが、それぞれの補助金・助成金事業が求める目的や事業効果をしっかりと理解して申請書を記載する

必要があります。

また、補助金・助成金を得るために、申請者が行っている活動そのものを変える必要もありません。むしろ、実施している活動の中ですでに実施している取り組みや工夫しているポイントがあれば、それらを改めて俯瞰した上で、申請書上で明確に言語化することが大切です。

今回の結果に関わらず、来年度以降も引き続き様々な補助金事業への申請を続けていただき、その申請手続きを通じて、より魅力的に活動の提案ができるよう目指してください。また、継続的に申請を行うことは、補助金を獲得する可能性を高めるだけでなく、申請者自身の活動の見直しやレベルアップにも繋がります。

私たち大阪アーツカウンシルとしましても、補助金の採択審査を、単なる審査の場ではなく、大阪における文化芸術活動の実情や課題を共有させていただくことを通じて文化政策そのものの検討を行う場として捉え、審査によって把握した課題などについては適切に対処していくよう努めていくとともに、文化芸術関係者の皆さまの活動を心より応援しながら、文化芸術分野での「架け橋」として機能できるよう活動してまいります。

大阪アーツカウンシル
統括責任者 宮崎優也